

教区通信

ふくおか

2019(平成31)年4月1日発行

Vol.128

発行

「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

-From tying bonds to great encounters-



▲ 実践運動研修会 (貧困の克服に向けて)

P2 実践運動研修会

P2 時局問題対策協議会 公開講座

P3 貧困の克服に向けて

P3 参考書籍のご紹介

P4 寺族婦人会連盟 実践運動研修会

P4 少年連盟 子どものつどい

P5 九州地区仏青リーダー研修会

P5 福岡教区仏教青年連盟について

P6 怡土組 実践運動の取り組み

P6 2019年度「得度習礼講習会」の案内

P7 連研履修者教区研修会

P7 法話 「いつも一緒だよ」

P8 行事予定・職員紹介

実践運動研修会 ～運動を担うわけ～

「御同朋の社会をめざす運動」 同朋運動部部長 黒木 観之

二月二十八日、実践運動教区委員会副委員長・同朋運動部部長を務められた原田円城さんを講師として迎え、「運動を担うわけ」をテーマに研修会を行いました。ご講師は、基幹運動から、実践運動へと名称が変更になった第一期の部長として運動に携わってこられました。これまで、外部講師をお願いしていましたが、第一期から第三期を迎え、当時の活動方針を踏まえ、運動推進に取り組んだ経緯をお話いただき、今一度教区委員と課題を共有していただければという願いをもつて研修会を実施しました。

第一期は、二〇一二(平成二十四)年から三年間実践運動として始動する前年未曾有の東日本大震災が起きました。宗派と連携し、復興に向けて支援活動に務められるよう、「災害支援：東日本大震災をはじめとする被災者への支援」を実践目標として取り組んだこと、また、宗派からスローガンを「そつとつながるホッ」と打ち出し、「ごえん」の冊子が出された事を伝えられました。その後、九州北部豪雨、熊本・大分地震・2度目となる九州北部豪雨による自然災害について真摯に受け止め、それぞれの支援に取り組まれたことを述べられました。一方、寄り添い・共有・克服という言葉が、政権により3つに集約され、東日本大震災被害者、慰安婦問題、辺野古移転に対する沖縄県民への常套句になっていて復興支援が如何にも進んでいると誤解を招いている事を述べられました。私たちも知ったからこそ、どう動くかが大事ではないかと実践の在り方を問われました。克服に向け温存助長してきたのではないのか、私たちは気付かないままではないのか、見ぬことが大事であると提案されました。

また、その寄り添いが、逆効果になったのか、NHKの番組にて、過去帳に類するものが閲覧された。そのことにより「過去帳又はこれに類する帳簿の開示問題」について改めて、寺院を問わず宗教的意味とは何か、差別問題に対する認識のあり方を一人ひとりが、親鸞聖人の御同朋の御心に学びを深めなくてはなりません。過去に、差別法名・過去帳調査が行われたが、課題の共有に向け、運動をおこなうことの大切さを再認識させられたとお伝えいただきました。

本山から、「身元調査お断り」のリーフレットが出されましたが、教区としてもファイル作成しました。それぞれ活用していただきたいと申し添えられました。また、教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)重点プロジェクトを第一期・第二期・第三期と打ち出していただき、この期間に、教区から提出した意見具申とを対比してレジュメとしてまとめてご講義いただきました。

全体会において、「差別法名において私たち真宗僧侶自身が犯してきたことに対して、しっかりと反省しなければならぬ。過去帳を開示する問題以前のものを私たちは担っている。」と、また、「門信徒に對して私たちはちゃんと向き合っているのか」と逆に問題を提起していただきました。今後、同朋運動部が、教区の皆様のお役にたてるよう努め取り組みたいと思います。なお、僧侶委員の参加率が非常に低いことが残念でした。部といたしましては、全体で課題を共有し、克服に向け多くの方と思索し取り組ませていただければと思います。現代社会において山積するあらゆる差別の克服に向け、努力したいと思えます。

時局問題対策協議会 公開講座

福岡教区時局問題対策協議会 会長 芳村 隆法

時局問題対策協議会は「仏教と共生社会」と題して三回の公開講座を開催しました。第一回は「朝鮮はなぜ南北に分断されているのか」と題して日本コリア協会・福岡理事長堀田広治さんをお招きし、朝鮮半島と日本の歴史についてお話しいただきました。第二回は筑豊フィールドワークを開催。一九一〇年から一九四五年の日本の敗戦まで続いた「韓国併合」という植民地支配によって、戦時下の労働力不足を補うため日本国内に強制連行された朝鮮人は六十七万人以上と言われ、そのうち十五万人が筑豊の炭鉱へと連行されました。苛烈な民族差別と劣悪な労働環境の下で亡くなった方々の遺骨の多くはボタ山に埋められ、戦後も遺骨は遺族に引き渡されることなく寺院に納められたまま、身元不明も多数ありました。

過酷な労働により命を落とした方々の遺骨を安置している松岩菩提と無窮花(ムグンファ)堂では、今も国内はもとより、韓国の学生たちも研修に訪れ、先人の苦難の歴史を学び、菩提碑や無窮花堂を大切に管理する市民の方々と交流を続けています。

第三回は福岡朝鮮初級学校校長の趙星来(チヨウ ソンレ)先生をお招きし、「私たちの街の朝鮮学校を知っていますか」という講座で、在日朝鮮人の歴史と

背景、民族的自覚、主体性、自律性を育める教育ウリハツキヨ(私たちの、みんなの学校)を指す思いなどを、子どもたちの学校生活や取り組み等の映像を交えて紹介していただきました。

また差別の現状として、日本国内での法的地位の低さ、各自自治体の朝鮮学校に対する補助金の廃止もしくは減額、学校と認めないために卒業資格を得られない、故に朝鮮学校だけが高校無償化から除外されていることや、今も日本社会の在日朝鮮人に対する誤解や偏見、嫌がらせは無くならず、保護者や児童に緊張や不安が拭えないこと、自らのルーツである朝鮮半島の未来への希望など、質疑を含めて包み隠すことなく誠実にお話しくださ

いました。今回の学びを通して、改めて宗祖が願われた「御同朋」とは何なのかという問いを突き付けられました。

今回の学びを通して、改めて宗祖が願われた「御同朋」とは何なのかという問いを突き付けられました。



「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」研修会
貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～
 —子どもたちを育むために—
 「御同朋の社会をめざす運動」寺院機能推進部 部長 渡邊 慈海

二〇一九(平成三十一)年三月四日、本願寺福岡教堂にて、宗門重点プロジェクトの「貧困の克服に向けて～Dāna For World Peace～」子どもたちを育むために」をテーマにした実践運動研修会を行いました。福岡県警少年課・少年サポートセンターの堀井智帆さんと、児童養護施設「洗心寮」の施設長である調浄信さんをご講師に招き、両ご講師のお話の後、質問票を元に質疑を行いました。

堀井さんからは、子どもの「心の貧困」という視点から、大人の「子どもとの関わり方の貧困」を指摘。子どもたちの「問題行動」の背後に何があったのか、に思いを馳せることのできる大人の存在が、子どもたちにとって必要だと述べられました。

調さんからは、ネグレクトや虐待などから子どもを保護する養護施設での経験から、親にも子育てで悩みや問題を抱えていることが多く、社会全体で子どもを育んでいくような世の中へシフトしていくことが求められている、と述べられました。

両ご講師とも、何かあったときにはまず「何しよるとね!」と叱りつけるような言葉を出すのではなく、「どうしたんね?」と相手を心配し、寄り添う声かけをしている

と言います。子どもの貧困の問題は、お金のことだけではなく人間関係、特に「自分を理解してくれる人(大人)」が存在することも、子どもたちにとっては大切であることを伝えられました。

浄土真宗は、大慈悲の心で私に寄り添ってくださる阿弥陀如来を依りどころとする教えです。常に私を心配して寄り添ってくださる方がいるということが、どれほど温かく有り難いことか。お念仏の教えをいただいた私たちは、良くわかつているはず

す。何かしら問題が発生すると「自己責任」の名のもとに他者を罰する方向に向かいやすいのが、現在の風潮ではないでしょうか。

また、そのような考えに自分が陥っていないでしょうか。しっかりと見つめ直していきたくと反省する学びでした。



参考書籍のご紹介

「貧困の克服に向けて ～Dāna for World Peace～
 —子どもたちを育むために—

福岡教区少年連盟では、少しではありますが参考書籍を購入いたしました。貸出しもできますので、御要望の際は少年連盟事務局までご連絡ください。



書籍名	著者	出版社
子どもの貧困ハンドブック	中嶋 哲彦、平湯 真人、松本 伊智朗、湯澤 直美、山野 良一	かがわ出版
貧困のなかにいる子どものソーシャルワーク	大西 良、「子どもの貧困」に向き合う人々	中央法規出版
地域で愛される子ども食堂つくり方・続け方	飯沼 直樹	翔泳社
子どもの貧困 未来へつなぐためにできること	NPO法人キッズドア理事長 渡辺 由美子	水曜社
口から見る貧困	兵庫県保険医協会	クリエイツかがわ
子どもの貧困と食格差	阿部 彩(編集)、村山 伸子(編集)、可知 悠子(編集)、鷹 咲子(編集)	大月書店
子どもの貧困 貧困の連鎖と学習支援	宮本 正明	みらい
親子カフェのつくりかた 成功する「居場所」づくり8つのコツ	小山 訓久	学芸出版社
子どもと貧困	朝日新聞取材班	朝日文庫

寺族婦人会連盟

寺族婦人会連盟

実践運動研修会

幹事 田代 寿子(御笠組 安紹寺)

二〇一八年度からの重点プロジェクト実践運動「貧困の克服に向けて」という目標で、筑紫女学院大学准教授 大西良先生より、社会問題として「子どもの貧困」が今現在日本で、どの様な状況なのかを二月十九日(火)にご講義いただきました。

子どもの貧困が日本では七人に一人であること。貧困の要因が相対的貧困①お金がない(経済的貧困)②チャンスがない(機会の貧困)③つながりが無い(関係性の貧困)④自信を持ってない(自己肯定感の低さ)これらが長く続くと、より深い心の傷となり社会生活のできない大人に成長してしまうことを説明いただきました。

また、空腹のためティッシュペーパーや段ボールを食べる子や食品を万引きする子ども、歯磨き習慣を教えてもらえなかった為に幼児期に既にすべての歯が虫歯になっている子どもたちが多いということなどをお聞きして大変驚きました。

では、浄土真宗の「寺」として私達はどうの様に取り組みればよいのか。あまりにも大きな問題の為戸惑い、何かをしたいが焦るばかりで、何から始めれば良いのか分からない。という意見もありましたが、すでに「子ども食堂」や「おてらおや

つクラブ」といった活動をされているお寺もありますので、良いところや注意する点などをお尋ねし合うのも貧困克服への一歩手助けになるのではと思いました。「寺」が昔担っていた様に地域の方だけに限らず一人暮らしの大人の方にも遠慮せずいつでも来やすい『居場所作り』をするのが『寺』として大きな役割ですよ。」とアドバイスもいただきました。

ひろがりつつある「子ども食堂」には「子ども食堂」＝「貧困」というレッテルをマスコミ等によりイメージが作られてしまっている。というお話もありました。今回の研修会には、参加者が多かったのも誰もが大きな関心を持ち、深い社会問題になっていることを実感いたしました。なぜこの国は子どもたちを貧困にさせてしまったのか、その背景にある社会問題と大人が今まで「無関心」でやり過ぎてきた事が今、子どもたちを苦しめている事に反省し、一人でも多くの子どもの国に生まれてきて良かったと思えるような明るい未来を残すのが、長く生きてきた私達の役割ではないのかと考えさせられました。生きとし生けるものすべて平等である仏様の教えを思い起こした研修会でした。

少年連盟 子どものつどい

二〇一九年一月二十日、本願寺福岡教堂にて、少年連盟子どものつどいが開催されました。

第一部は香川県にある岩佐佛喜堂の岩佐一史さんよりお香作りを教えていただきました。お香の歴史を交えながら、みんな楽しそうに粘土のようにお香を捏ね、思い思いの形を作りました。作ったお香は、本願寺福岡教堂・福岡教区報恩講話要にてお供えをいたしました。

第二部はTOYXボーズの佐藤慶樹さんをお招きし謎解きゲームを行いました。難問に頭を抱えておりましたが、班で協力して謎を楽しそうに解いていました。二〇一九年度も子どものつどいを開催いたしますので、皆様の参加を心よりお待ちしております。



戦後74年戦争犠牲者追悼法要 非戦・平和を願うつどい

【期 日】 6月18日(火) ※日程未定
【会 場】 本願寺福岡教堂 3階礼拝堂
【講 師】 白井 聡さん
(京都精華大学 人文学部
総合人文学科 社会専攻)

みなさまの御参拝、お待ちしております

災害犠牲者追悼法要

【期 日】 5月29日(水)開催
【会 場】 本願寺福岡教堂 3階礼拝堂
【講 師】 郡島俊紀さん(福岡教区 那珂組 光照寺前住職)
【第1部】 法 要 13:30 追悼法要『正信念仏偈作法 第二種』
【第2部】 講演会 14:20 講 演
15:20 休 憩
15:40 全体協議会(質議応答)
16:15 閉 会

どなた様もご自由に御参拝いただけます。法要中、御参拝の皆様には焼香のご案内をいたします。被災地の物産展を計画しておりますので、ご協力をお願いいたします。

九州地区仏青リーダー研修会

福岡教区仏教青年連盟委員長 小山 真行 (御笠組 伯東寺)

今年の二月二十三日、二十四日に九州地区仏青リーダー研修会を福岡教区担当にて開催させていただきました。

この研修会は二〇一九年十月開催予定の『第四十四回九州地区真宗青年の集い福岡大会』（仏青九州大会）に向けて、九州各教区から代表の方に参加していただき、実際に企画内容を体験してもらい、意見やアドバイスを伺うというプレ大会のような研修会です。

一日目はヒューマンライブラリーを行いました。これは障がい者や性的少数者（LGBTQ）など、さまざまな立場の方がたが小人数の聞き手に対して自分自身について語っていただくというものです。話し手を「本」、聞き手を「読者」に例え、聞き手は読みたい本を選ぶように知りたい人の話を聞いて行くというものです。本物の「本」とは異なりその場で実際に対話ができ互いに理解を深め合えるというのが特長です。

参加してみても「本」の方がたの生い立ちや悩み、苦労している話を聞いてみると、自分の何気ない行動や発言が人を傷つける恐れがあるという認識を得たり、同じ悩みを抱えているという共通点も見出すことができました。

二日目は清水亜希子さん（クラウドナイン・エデュケーション代表）をご講師にお招きし「対立のないコミュニケーション



ワークショップ」を行い、気持ちにはいろいろあるということを学びました。例えば、「子供が本堂の内陣に入っていました。あなたはどう思いますか？」という質問に対してみんなでどんな気持ちになるかを想像し、焦る、怒る、嬉しいなど、それぞれ同じ「きもち」同士が集まり、そのように思った理由を話し合うというものがありました。同じ焦ると思っただ人達の中でも理由はさまざまあり、同じような気持ちでも決して理由は一つではないということを学びました。

二日間を通して一緒に参加された方がたと話す機会も多く、共に学びながら仲良くなるご縁をいただきました。そして多くの青年層の方がたに「第四十四回九州地区真宗青年の集い福岡大会」に参加してもらい共に学び、共に楽しめる大会にしたいと改めて思いました。

リーダー研修会を終えて少しほっとしましたが、新たに大会に向けてしっかりと準備していかなければと身が引き締まりました。皆様におかれましては大会のご案内は後日、各寺にお送りしますので、お知らせやお近くの青年層のご門徒さん、若院さん、若坊守さんには是非参加の呼び掛けをしていただけたらと思います。



福岡教区仏教青年連盟について

仏教青年連盟（YBA：Young Buddhist Association）とは、共にみ教えに問い、聞き、学びあい、実りある人生を歩もうとする青年の聞法組織です。

福岡教区仏教青年連盟では、青年層を中心にもっと仏教や世間の問題についてともに学び、自分達その問題にどう関われるか考え、そこから拡散して各地域で仏教を通しての生き方を伝えることができるメンバーを増やして行くことを目的として活動しております。

現在の会員数は29名、2単位会が所属しております。寺族の方、宗門校である筑紫女学園大学でご縁に会い参加して下さった方や、ご門徒の会員もいらっしゃいます。

主な活動としては、定例会（2カ月に1度程度）、聞法会など企画、運営をしております。

また、仏教青年連盟は会員を随時募集しております。仏教について興味がある方、浄土真宗について勉強したい方、仲間作りをしたい方。行事に一度参加してみて決めていただいても構いません。気になった方は、福岡教区教務所仏教青年連盟事務局までお問合せください。

「第44回九州地区真宗青年のつどい～福岡大会～」

2019年10月12日(土)～13日(日)に開催決定!

皆様のご参加を、心よりおまちしております。

スタッフとして関わってくれる方も募集中です。

怡土組 実践運動の取り組み

怡土組では実践運動開始当初から「東日本大震災をはじめとする被災者への支援」を組の実践目標として取り組んでまいりました。二〇一六年度からは「熊本・大分地震被災者への対応に向けて」をサブテーマとして、広く災害被災者への支援に取り組んでいます。また、二〇一八年度より、「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace〜子どもたちを育むために〜を実践目標に追加いたしました。

二〇一八年度は災害被災者支援の取り組みとして、二〇一九年二月七日に「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)推進協議会」の中で「東日本大震災から八年目の現状と課題」をテーマに、本願寺派総合研究所研究員の安部智海さんに講義いただきました。

講義の中で、八年間のボランティア活動の内容を紹介し、ボランティアは目的・対象・手段を明確にし、被災者の気持ちを受けとめることが重要であることをご教示くださいました。その後

の全体協議では、今の被災地の課題について、仮設住宅が縮小し、被災者が復興住宅に移っていく中で、仮設住宅



で作られたコミュニティが無くなり、孤独で苦悩している方が見えにくくなっていると指摘されました。

また、研修会当日は怡土組寺族婦人会による、東日本大震災被災地支援の物品販売が行われ、収益金は東日本大震災の災害支援金として寄付させていただきました。

毎年の活動として、三月十一日にJR筑肥線の筑前前原駅から今宿駅までの各駅前で、被災者支援の募金活動を実施しています。組内寺族、門信徒全員で取り組み、組独自作成のチラシを配付して募金の呼びかけをしています。



子どもの貧困問題の取り組みとしては、志摩組と合同で『御同朋の社会をめざす運動』(実践運動)公開講演会を開催いたしました。

今回は、福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカーの梶谷優子さんをお招きし、「子どもの貧困を取りまく現状と課題」をテーマに、子どもを取りまく現状や貧困問題の課題についてお話いただき、地域や大人が取り組んでいただきたい活動として、すべては子どもたちのために、子どもの話を聞く、SOSを出せる環境を作っていく、家庭・地域・学校を育てていくことなどをご教示くださいました。この講演の内容を踏まえて、来年度は子どもの貧困に関する具体的な取り組みを進めていきたいと考えています。

2019年度「得度習礼講習会」の案内

＜福岡教務所開催＞

第1回・・・2019年 6月29日(土) 9:30～17:00
30日(日) 8:50～15:30

第2回・・・2019年12月 5日(木) 9:30～17:00
6日(金) 8:50～15:30

＜受講料＞15,000円(講習会当日ご持参ください)

＜締切＞第1回 6月20日(木) / 第2回 11月25日(月) ※教務所必着

※申込書は教務所にありますので、ご連絡ください。

※交付された「修了証」は、得度考査に代わるものではありません。

また、「修了証」の有効期限は3年です。3年以内に得度を受式ください。

※得度考査について

得度習礼講習会期間中に得度考査を希望される方は、得度考査願を得度習礼講習会受講申込とあわせて提出ください。別途得度考査手数料(7,500円)が必要になります。

連研履修者教区研修会

「御同朋の社会をめざす運動 (実践運動)」 門信徒教化部部长 郡島 朋昭

二月十七日、本願寺福岡教堂にて連研履修者教区研修会が開催されました。

研修会の冒頭に、宗像組浄徳寺門徒増永このみさんに中央教修了者体験発表をしていただきました。

体験発表では、人に勧められ中央教修への参加を決意したが、とても緊張していたという心情や、実際に参加して「話し合い法座では、はじめて顔を合わせた人なのに、自分をさらけ出して話すことができ、今まで体験したことのない学びと感動がありました。ぜひ、ご自身で体験してください。」とお話しいただきました。

引き続き研修会では、連研中央講師 加藤 真悟さん(大阪教区讃良組自然寺)をご講師として「連研を受講して〜み教えと私〜」というテーマでお話をいただきました。

問題提起を受けての実際の話し合い法座では、連研を通して気づいたことや変わったことを中心に様々な意見が出ました。

まとめでは様々な問いを持つことが連研の意義であり、その問いに対して取り

組む私のいのちをたてるべきところが仏の願いであると押さえていただきました。「み教えと私」のテーマは仏の願いの上に私がどう生きるのかという自らの主体的な生き方を問うものであったと知らされました。

二〇一八年度は、五組より聴講を含め九名の参加がありました。当研修会は、各組で連研を修了された門信徒の方を対象にした研修ですが、連研に関わっている僧侶や門徒推進員の方も聴講として参加ができます。二〇一九年度も開催いたしますので、ぜひ参加奨励並びにご参加のほど、よろしく願います。



一言法話

三年前の四月、熊本で起きた大地震で姉を亡くしました。享年四十七才。あつという間の出来事でした。当時、高校受験を控えていた長女、中学一年の次女、小学三年の三女、五才の長男、そして最愛の夫を残したまま。葬儀までの二日間は、布団に眠る姉を囲み、みんなで枕を共にしました。

葬儀の日、
『お母さんはね、寝たふりしてるんよ。僕たちをびっくりさせようと思ってね。』と、棺の周りを無邪気に走り回っている長男に、かける言葉がみつからなかったことを思い出します。

あれから二年が経ち、昨年

三回忌を勤めさせていただきました。成長した自分を母親に見てもらおうと、お仏壇の前には通知表やメダルや賞状が沢山並べてありました。長女は少しでも父の役に立ちたいと、得度を受け、衣をつけさせていたたく身になりました。やんちゃでチョロチョロしていた長男がもう二年生。文字も読めるよう

「いつも一緒だよ」

早良組 光明寺
平川 正道

になり、誰よりも大きな声でお念仏を称えているのです。お勤めをする子どもたちの後ろ姿に思わず嬉し涙がこぼれました。しかし誰よりも喜んでるのは、幼い子どもを残し先立っていった姉ではないかと思えます。その姉が今はお浄土に往生生まれ、仏となって導いてくださっているのです。

子どもの手が合わさり、お念仏申す姿にこそ、間違いない母の願いが至り届いているのだと味あわせていただきました。
「仏様はね、どんなに立派な賞状よりも、お念仏するあなたを喜んでくださるよ。」と、いつか子どもたちに伝えたいと思います。

「どんな人生を送ろうとも、いつでもどこでも、お念仏申す身の上には阿弥陀様が、またお母さんが一緒にしてくださるよ。」

大きな声でお念仏する子どもたちの後ろ姿を拝ませてもらい、私にとって悲しみの中にも嬉しさの入り混じった法要となりました。

福岡教区教務所の予定表

月	日	曜	時	内容
4月	2	火	10:00	仏教婦人会連盟 支部長会
	3	水	14:00	ビハーラ・福岡 例会
	5	金	13:00	門徒推進員連絡協議会 第1回役員会 / 18:30 仏教青年連盟 定例会
	8	月	10:30	仏教壮年会連盟 監査 / 13:30 第1回仏教壮年会連盟 理事会
	9	火	10:00	門徒推進員連絡協議会 監査 / 14:00 実践運動同朋運動部会
	10	水	10:00	仏教婦人会連盟 監査 / 15:00 少年連盟 監査
	12	金	11:00	門徒代表者協議会 監査 / 13:30 第1回門徒代表者協議会
			14:00	寺族婦人会連盟 総会 習礼
	14	日	13:30	親鸞聖人鑽仰講座 (~15日迄)
	15	月	11:00	清掃奉仕 (嘉麻組・三門南組) / 19:00 仏教青年連盟大会実行委員会広報部会
17	水	15:00	実践運動非戦・平和部会 / 15:00 少年連盟 役員会 仏教婦人会連盟総連盟 総会 (本山~18日迄)	
18	木	14:00	ビハーラ・ライン 例会 / 15:00 若い布教使の会 総会	
19	金	10:00	寺族婦人会連盟 総会	
20	土	10:30	門徒推進員連絡協議会 総会	
22	月	14:00	実践運動常任委員会 / 16:30 実践運動 門信徒教化部会	
23	火	15:00	第1回子ども・若者ご縁づくり (キッズサンガ) 推進委員会	
24	水	10:00	布教団 監査 / 14:00 布教団 役員会 / 16:00 布教団 企画委員会	
25	木	15:00	組長会	
26	金	13:00	保育連盟 監査 / 15:00 保育連盟 役員会	
5月	7	火		第5回浄土真宗学寮真宗講座 (福岡~8日迄)
	8	水	15:00	仏教青年連盟 監査
	9	木	10:00	仏教婦人会連盟 支部長会 / 14:00 福岡矯正管区教誨師連盟 理事会
	10	金	14:00	護持口数調整委員会
	14	火	11:00	清掃奉仕 (福岡組・三門南組) / 13:30 親鸞聖人鑽仰講座 (~15日迄)
	17	金	14:00	時局問題対策協議会 役員会
	22	水	14:00	ビハーラ・福岡 総会
	23	木	14:00	福岡教誨師会 理事会 (役員会)
	24	金	13:30	仏教壮年会連盟 総会 / 15:30 実践運動研修会
	27	月	14:00	実践運動常任委員会
28	火	14:00	ビハーラ・ライン 総会	
29	水	13:30	災害犠牲者追悼法要	
30	木	15:00	第2回子ども・若者ご縁づくり (キッズサンガ) 推進委員会	
31	金	18:00	仏教青年連盟 総会	
6月	4	火	10:00	仏教婦人会連盟 総会
	6	木		教堂・教区会計監査 (~7日迄)
	10	月	13:00	布教団 総会
	11	火		講社連盟 総会 / 実践運動教区委員会 全体会
	12	水	14:00	ビハーラ・福岡 役員会
	13	木	10:00	教堂委員会 / 13:30 常備会
	14	金	11:00	清掃奉仕 (志摩組・西嘉穂組) / 13:30 親鸞聖人鑽仰講座 (~15日迄)
	18	火		戦後74年戦争犠牲者追悼法要
	19	水	14:00	社会福祉推進協議会 第1回評議委員会 / 16:00 少年連盟 総会
	20	木	14:00	ビハーラ・福岡 例会 / 14:00 福岡教誨師会 総会
21	金	14:00	実践運動常任委員会	
24	月	13:30	門徒代表者協議会 総会	
25	火	14:00	僧研講師養成研修会	
26	水	15:00	組長会	
27	木	13:00	臨時教区会	
29	土	9:30	得度習礼講習会 (~30日迄)	

職員紹介



山野 尚樹
(北豊教区 田川下組 西光寺)
今年度より福岡教区教務所に勤務させていただきます。未熟な身ですが、誠心誠意努力させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



高橋 唯焔
(福岡教区 東筑組 妙心寺)
4月1日付、福岡教区教務所・本願寺福岡教堂勤務のご縁をいただきました。懸命に務めさせていただきますので、宜しく御願い申し上げます。

退職いたしました

小山田 真哉
今まで、ありがとうございました。

大島 光一
2018年3月末で退職いたしました。この1年間、非常勤として奉職させていただき、この度、改めて退職させていただきました。24年間、福岡教区内の皆様には大変お世話になりました。今後は、今まで通り、自坊にてご法義繁盛に精進したいと思います。

編集後記

昨年度は、各組の活動を掲載し運動の理解を深めることが出来たと思います。今後も続けていく運動なので、より多くの情報を掲載できればと思います。

発行責任者
浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 野村 宗雄
〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2
電話:092(771)9081